

# 第3章 | 動詞1

## 1 直説法・能動態・現在

### 動詞の活用

ラテン語の動詞は同じ時称でも人称と数によって語尾が変わります。人称には、英語と同じく1人称、2人称、3人称の3種類があり、数には単数と複数の2種類があります。活用の仕組みを理解するため、英語 love（愛する）の変化とラテン語 amō（愛する）のそれをくらべてみましょう（いずれも時称は現在）。

#### ●英語 love 愛する

	単数	複数
1人称	I love	We love
2人称	You love	You love
3人称	He (She, It) loves	They love

英文法では「3人称単数のsをつけなさい」と習います。注意することはそれだけです。3人称単数以外はみな同じ形（動詞の原形）になるので、いちいちこのような表を作る必要はありません。それに対し、ラテン語の場合、1人称単数から3人称複数まですべての語尾が変わります。

#### ●第1変化動詞 amō 愛する

人称・数	単数	複数
1人称	amō	amāmus
2人称	amās	amātis
3人称	amat	amant

英語の表には人称代名詞を添える必要がありますが、ラテン語の場合その必要がありません。英語で人称代名詞の主語を省き、Loves roses. とい

っても「彼はバラを愛する」と理解してもらえません。loves の s を取って Love roses. というものなら「バラを愛しなさい」という命令文になってしまいます。英語の場合、〈主語〉〈動詞〉〈目的語〉の語順を厳密に守る必要があります、このどれ一つ取っても勝手に省くわけにはいきません。

それに対し、ラテン語の場合、動詞の活用によって主語が明示される仕組みであるため、人称代名詞の主格を省略するのが普通です。「彼はバラを愛する」をラテン語にすると、Rosam (Rosās) amat. となります(カッコ内は複数形)。語順も英語のように厳密に定められているわけではありません。Amat rosam (rosās). でもかまいません。語順を変えても変化のルールさえ守れば、表現上支障はないのです。これがラテン語の特徴なので、名詞や形容詞と同じく、動詞についても変化をしっかり覚えることが学習の基本です。

ではもう一度、第1変化動詞 amō (愛する) の変化表(活用表)を見て下さい。amō, amās, amat, amāmus, amātis, amant の順に音読します。読み方はこうなります。「アモ-アマ-ス・アマト・アマ-ムス・アマ-ティス・アマ-ント」(アクセントは下線部)。それぞれの意味は「私は愛する」「あなたは愛する」「彼(彼女、それ)は愛する」「我々は愛する」「あなた方は愛する」「彼らは愛する」となります。何も見ずに「アモ-、アマ-ス……アマ-ント」と口に出して唱えられるまで、また、何も見ずに amō, amās, ... amant と正確に書くことができるまで書き取りの練習を続けて下さい。

## 法・態・時称・人称・数

さて、今見たのは「現在」時称の例です。ラテン語の時称には、現在、未来、未完了過去、完了、過去完了、未来完了の6種類があります。これに加えて「態」(voice)の違い(能動態と受動態)と「法」(mood)の違い(直説法、接続法、命令法、不定法)があります。

今紹介した amō の変化は、直説法・能動態・現在の変化です。たとえば、「amat の形は？」と問われたら、「動詞 amō の直説法・能動態・現在、3人称単数」と答えます。名詞や形容詞については、それぞれの「性・数・格」を明らかにするように、動詞の場合は単語の「法・態・時称・人称・数」を明らかにします。

すると、その可能性はありません。主語は *tū* 以外ありえないからです (ただし *tū* は省略)。後半の *vincere* の目的語としての *necessitatēs* も省かれています。

5. 前半は、「AがBであること (=不定法句) は十分ではない (*nōn satis est*)」という構文です。Aは *poēmata* (中性・複数・対格)、Bは *pulchra* (*pulcher* の中性・複数・対格)、「であること」は *esse* です。後半の *suntō* は *sum* の命令法・能動態・未来、3人称複数です。命令文の主語は *poēmata* (中性・複数・主格) ですが、省略されています。



# 第6章 | 代名詞1

## 1 人称代名詞、指示代名詞（1）、再帰代名詞

### 人称代名詞

英語では I, my, me (アイ・マイ・ミー) と唱えて覚えますが、ラテン語も人称代名詞を学ぶ基本姿勢はそれと同じです。はじめに1人称、2人称の変化表をご覧ください(3人称の人称代名詞はありません。このことについては後述)。

#### ● 1人称の人称代名詞

	単数 (私)	複数 (私たち)
主格	ego	nōs
属格	meī	nostrī, nostrum
与格	mihi (mī)	nōbīs
対格	mē	nōs
奪格	mē	nōbīs

※ nostrī と nostrum の区別については後述。1人称の複数 nōs は1人称の単数 ego の代わりに用いられることがある。なお、時代や作家の好みによって egō のつづりもあるが、本書では ego で統一する。

#### ● 2人称の人称代名詞

	単数 (あなた)	複数 (あなたたち)
主格	tū	vōs
属格	tuī	vestrī, vestrum
与格	tibi	vōbīs
対格	tē	vōs
奪格	tē	vōbīs

※ vestrī と vestrum の区別については後述。